

大学生の基礎学力を考える III

岡内弘子

はじめに

筆者は、一昨年、大学生の基礎学力を考えるために、日本全国47都道府県名を知っているかどうかの調査をし、報告した(香川大学教育学部研究報告Ⅰ-146号)。昨年は、小学校・中学校の国語科教員の免許を取得する必要がある国語国文学教室所属の学生・同様の免許取得を希望する他専攻の学生を対象として、基礎的と思われる学力・知識を調査した(香川大学教育学部研究報告Ⅰ-148号)。香川大学教育学部では、学校教育教員養成課程の学生は、教員免許を取得できる単位がそろわなければ卒業できない規則となっている。今回は、昨年同様の資料を用いて、同様な調査を行った。昨年との比較を見てみたい。

いずれ教員として、児童・生徒を教えることになる学生が、過去に学んだ内容をどの程度覚えているか、理解しているのかを知りたいと思い調査する。大学での講義を進めるにあたって、参考になると考えた。

1 調査用問題

調査に用いたのは、『奥の細道』平泉の部分である。先に、高校3年生を対象として、この文章を使って下記の質問をする機会があった。長い文章ではなく、適度な分量でもあり、また格別に「古語」と思われる単語も使われていない。こうしたことから、基礎的な学力を見るにふさわしいのではないかと考えた。結果を詳しく報告することは避けるが、成績は全くかんばしくなかった。そのことに驚き、同様なことを大学生に対しても調査しておくことを考えた。

問題の文章は、香川大学の所在地である香川県で広く使用されている中学3年生の教科書(東京書籍)にカラー写真・地図・解説と共に掲載されている。また、中学生に副読本として持たせている『国語便覧』(浜島書店)にも同様に、地名の入ったカラー写真・地図・解説と共に掲載されている。大学でも、この便覧を2年生の必修講義「日本古典文学史」の参考図書として使っている。

おそらく広く知られているであろうと推測される、『奥の細道』でも有名な箇所である。かつて、筆者は中学時代に暗唱させられた記憶がある。

問題は、以下の通りである。

4 調査結果と分析

I 問一の分析「漢字の訓み」

- ・ 主な箇所^よの訓みの結果を下に記した。以下、調査結果を表示した左端の番号は、本稿で取り上げた全調査を通じて共通した番号を付しており、同一人物を示す。
- ・ 網掛けは、誤答。

2年生(★印は、国語以外の学生)

	栄耀	秀衡	田野	金鶏山	高館	北上川	衣川	城
1	えいやく	ひでひら	でんや	きんかくさん	たかだち	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
2	えいやく	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	きぬがわ	しろ
3	えいやく	ひでひら	でんや	きんけいざん	こうかん	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
4	えいすい	ひでひら	でんや	きんけんざん	たかだち	きたかみがわ	きぬがわ	じょう
5	えいよう	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	きぬがわ	しろ
6	えいこう	ひでのり	でんや	ごんけいざん	こうかん	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
7	えよう	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	ころもがわ	じょう
★8	えいが	ひでひら	でんや	きんけいせん	こうかん	きたかみがわ	きぬがわ	じょう
9	えいやく	ひでひら	でんの	きんけいざん	たかだて	ほくじょうがわ	きぬがわ	しろ
★10	えいよう	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	ころもがわ	じょう
11	えいやく	ひでひら	たや	こんけいざん	こうかん	きたかみがわ	いかわ	じょう
12		ひでまさ	でんの	きんけいざん	こうかん	きたかみがわ	いかわ	しろ
13	えいかい	ひでより	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
14	えいやく							
15	えいよう	しゅうえい	たの	こうかくさん	たかやしき	きたかみがわ		しろ
16	えいが	ひでやす	でんや	きんけいざん	こうかん	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
17	えいよう	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	ころもがわ	じょう
18	えんえい	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだち	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
19	えいよう	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだて	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
20	えいよう	ひでひら	でんや	きんけいざん	たかだて	きたかみがわ	ころもがわ	しろ
★21	えいやく							
★22	えいよ	ひでひら	でんや	きんほうざん	こうかん	きたかみがわ	ころもがわ	しろ

1年生

1			たの				ころもがわ	
2		ひでひら	でんや	きんうざん	こうかん	きたかみがわ	ころもがわ	しろ

2年生

	衣が関	南部口	夷	義臣	一時	叢	草青みたり
1	ころもがせき	なんぶこう	え		いちじ	ごう	くさあおみたり
2	きぬがせき	なんぶぐち	い	ぎしん	いっとき	いわお	くさあおみたり
3	ころもがせき	なんぶこう	えみし	ぎしん	いちじ	くさむら	くさあおみたり
4	きぬがせき	なんぶこう		ぎしん	いちじ		くさあおみたり
5	きぬがせき	なんぶこう	え	ぎしん	いちじ	わざわい	くさあおみたり
6	ころもがせき	なんぶこう	し	よしのり	いちじ	わざ	くさあおみたり
7	ころもがせき	なんぶぐち	い	ぎしん	いちじ	かしむら	くさあおみたり
★8	きぬがせき	なんぶこう	い	ぎしん	いっとき	むらくも	そうしゅんみたり
9	ころもがせき	なんぶこう	い	よしとみ	いちじ	ことわざ	くさあおみたり

★10	ころもがせき	なんぷこう	えぞ	ぎしん	いちじ	くさむら	くさあおみたり
11	いがせき	なんぷこう	い	よしおみ	いちじ	いわお	そうじょうみたり
12	ころもがせき	なんぷこう	ぞ	ぎしん	いちじ	わざわい	くさあおみたり
13	ころもがせき	なんぷぐち	えぞ	ぎしん	いちじ	わざ	くさあおみたり
14							
15	ころもがせき	なんぷぐち	ぞ	ぎしん	いちじ	わざわい	くさあおみたり
16	ころもがせき	なんぷぐち	い	よしまさ	いちじ	ごう	くさあおみたり
17	ころもがせき	なんぷぐち	え	ぎしん	いちじ	くさむら	くさあおみたり
18	ころもがせき	なんぷぐち	えみし	ぎしん	いちじ	くさむら	くさあおみたり
19	ころもがせき	なんぷぐち	い	ぎしん	いっとき	わざ	そうせいみたり
20	ころもがせき	なんぷぐち	い	ぎしん	いっとき	わざ	そうせいみたり
★21							
★22	ころもがせき	なんぷこう	えみし	よしおみ	いちじ	ごう	くさあおみたり

1年生

1	ころもがせき	なんぷぐち	えみ		いちじ	わざ	
2	ころもがせき	なんぷこう	い	よしおみ	いちじ		くさあおみたり

(1) 単純に漢字が訓めるか否か(なお、漢字の訓みは、中学3年生用の教科書に従う)。

①栄耀	昨年度2年生国語専攻	正解	4名(11名の内)	36.4%
	2年生国語専攻	正解	5名(18名の内)	27.8%
※以下、正解者数を先に記し、()の中に総数を記す。				
②田野	昨年度2年生国語専攻		8名(11名)	72.7%
	2年生国語専攻		14名(18名)	77.8%
③城	昨年度2年生国語専攻		2名(11名)	18.2%
	2年生国語専攻		4名(18名)	22.2%
④南部口	昨年度2年生国語専攻		2名(11名)	18.2%
	2年生国語専攻		9名(18名)	50.0%

・昨年度に比べると、正解者の割合がずいぶん高かった。

(2) 人名に関する知識を必要とする訓み。

①秀衡	昨年度2年生国語専攻		8名(11名)	72.7%
	2年生国語専攻		12名(18名)	66.7%

(3) 地理の知識と関わる訓み。

①北上川	昨年度2年生国語専攻		8名(11名)	72.7%
	2年生国語専攻		17名(18名)	94.4%

(4) 言葉を知っていて、漢字と関連させられるかに関わる訓み。

①夷	昨年度2年生国語専攻		0名(11名)	0%
	2年生国語専攻		1名(18名)	0.06%

・昨年度同様、全体の訓みの中で、群を抜いて正解者が少ない。

(5) 文脈の読解力を必要とする訓み。

①義臣	昨年度 2 年生国語専攻	5 名 (11名)	45.5%
	2 年生国語専攻	12名 (18名)	66.7%
②叢	昨年度 2 年生国語専攻	2 名 (11名)	18.2%
	2 年生国語専攻	3 名 (18名)	16.7%
・昨年度同様、全体の訓みの中で、正解者が少ない。			
③草青みたり	昨年度 2 年生国語専攻	9 名 (11名)	81.8%
	2 年生国語専攻	14名 (18名)	77.8%

(6) 昨年度・今年度ともに、15か所の訓みについて報告した。10か所以上正解した者の数を示すと以下の通りである。

昨年度	国語専攻 2 年生	2 名	18.2%
	国語専攻以外 1・2 年生	0 名	0%
	国語専攻 3 年生	4 名	44.4%
	国語専攻 4 年生	8 名	50.0%
今年度	2 年生	8 名	36.4%

(ア) 調査対象人数が多くないが、昨年度の 1・2 年生よりは、今年度の方が『奥の細道』が訓めている。

(イ) えぞ・くさむらの正答率が低いことは、昨年度同様である。他の言葉と比較して、極端に低い。ともに、常用漢字ではないことが原因であろうか。昨年度と異なり「夷」を「ぞ」と訓んだ学生が 2 名いた。「し」「え」は、昨年度も見られた (全体で 3 名) が、今年度初登場の「ぞ」も含めて、不思議な訓み方である (日本語として、「助詞」以外ではほとんど聞いたことがないのではないかと考えるが)。

Ⅱ 問二の分析「作品の題名・作者・成立の時代」

番号	作品の題名	作者	成立の時代
1	平家物語		鎌倉時代
2	平家物語	兼好	室町時代
3		松尾芭蕉	
4	平家物語		鎌倉時代
5	金塊物語		室町時代
6	平家物語		鎌倉時代
7	奥の細道	松尾芭蕉	江戸時代
★8	奥州藤原氏		鎌倉時代
9	源氏物語		室町時代
★10			
11			鎌倉時代
12	奥の細道	松尾芭蕉	江戸時代
13	平家物語	兼好法師	平安時代
14	奥の細道	松尾芭蕉	鎌倉時代
15			室町時代

16	奥の細道	松尾芭蕉	室町時代
17	奥の細道	松尾芭蕉	鎌倉時代
18	奥の細道	松尾芭蕉	
19	義経記		鎌倉時代
20	平家物語	兼好	室町時代
★21			
★22	平家物語	定家	平安時代
1			
2	平家物語		鎌倉時代

「奥の細道」と解答した者

昨年度2年生国語専攻	0名(11名)	0%
2年生国語専攻	6名(18名)	33.3%

(ア) 今年度は、「奥の細道」と答えた者が多かった。昨年度の2年生国語専攻の者とは、大きな違いである。「松尾芭蕉」と繋がる者も6名。しかし、「江戸時代」と答えられた者は2名である。3分の1に減少してしまう。「奥の細道—芭蕉」まで繋がりながら、なぜ、鎌倉(2名)・室町(1名)となるのかよくわからない。知識が断片的であり、繋がりがなく記憶しているようである。

(イ) 今年度は、「平家物語」と答えた者が、8名(1・2年生全体24名のうち)、33.3%である。昨年度は、4名(1・2年生全体23名のうち)、17.4%であったことと比べると、ほぼ2倍に増えている。今年度は、「平家物語—兼好」が3名(「平家物語」とした者のうち37.5%)いた。昨年度は1名(同様の者のうち25.1%)である。高校生段階では、おそらく、兼好は「徒然草」の作者(歌人としてよりは)として理解されていると考えるが、今年度の1・2年生には「平家物語」と結びつける何かのきっかけがあったのだろうか。

(ウ) 昨年度の3・4年生国語専攻の学生には、「平家物語—兼好」とした者はいなかった。学年が進むと、こうした誤った理解はなくなるのか。

Ⅲ 問三の分析「口語訳『こなた』」

正解である「こちら」 1名(1・2年生24名)

(ア) 「先・離れたところ・かなた」と解釈する者が多数であるのは昨年度と同様。昨年度、1・2年生23名のうち、「こちら」と解釈した者は0名であった。

Ⅳ 問四の分析「もととなった『詩』の名称・作者」

李白とのみ答え、詩の名称はわからない者	3名
春暁 李白	1名
春望 李白	1名
春望 杜甫	1名(番号 20)
春暁 とほ	1名

(ア) 正解者は、1名だけである。昨年度は、1・2年生に正解者はいなかった。

(イ) 24名のうち、5名(20.8%)が「李白」と答えている。昨年度の1・2年生は「李白」が1名だけ(詩の名称は、書いていなかった)であったことを勘案すれば、今年度の1・2年生には、「李白」を強く意識させる何か事情があったかとも思われる。中国の詩人といえば、高校生には「杜甫」よりも「李白」の印象が強い。

V 問五の分析『『ぬ』を文法的に説明する。』

2年生

番号		正誤
1	過去の助動詞「ぬ」の終止形	×
2	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
3	過去の助動詞「ぬ」の終止形	×
4	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
5	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
6	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
7	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
★8	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
9	過去の助動詞「ぬ」の終止形	×
★10	過去の助動詞「ぬ」の終止形	×
11	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
12	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
13	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
14	完了の助詞	×
15	過去の助動詞「に」の終止形	×
16	継続の助詞「ぬ」の終止形	×
17	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○
18	完了の助動詞「ぬ」の已然形	×
19	推量の助動詞「ぬ」の終止形	×
20	過去の助動詞「ぬ」の終止形	×
★21	完了「ぬ」の終止形	×
★22	完了「ぬ」の終止形	×

1年生

1	助動詞終止形	×
2	完了の助動詞「ぬ」の終止形	○

昨年度2年生国語専攻	6名(11名)	54.5%
2年生国語専攻	9名(18名)	50.0%

(ア) 受験が終わって1年が経過しているにもかかわらず、昨年度・今年度ともに正答率が高いことに驚かされる。正解者の割合は、ほぼ等しい。

VI 問6の分析「最後におかれた『俳諧』がわかるか。」

あえて、設問には「俳諧」と書いていない。無解答の者は、報告していない。

番号	俳諧 等	作品の題名	作者	成立の時代
7	秀衡や兵どもが夢の跡	奥の細道	松尾芭蕉	江戸時代
9	ただ春の夢のごとし	源氏物語		室町時代
17	夏草や兵どもが夢の跡	奥の細道	松尾芭蕉	室町時代
19	夏草や兵どもが夢の跡	義経記		鎌倉時代
20	風の前のもしびに同じ			

(ア) 正解者は2名である。昨年度、1・2年生の正解者は0名。しかし、この2名ともに、作品の題名・作者・成立の時代に関しては、理解が怪しい。俳諧が分かりながら、義経記・鎌倉時代と解答した19番、奥の細道・松尾芭蕉と解答しながら室町時代とした17番もいる。鎌倉・室町に「俳諧」という文学ジャンルは無いと教わると考えるのだが。知識が細切れである結果であろうか。

(イ) 9番・20番は、平家物語の印象が強かったか。「ただ春の夜の夢のごとし」・「風の前のちりに同じ」(風前の灯火ではない…)を想起したようである。しかし、作品の題名・作者・成立の時代は「平家物語」とは関わっておらず、どこかで聞いた文句を書き込んだだけのようなのである。

おわりに

- ① 漢字の訓みを除いても、「問二」以降をすべて正解した学生は、誰もいない。昨年度の調査と同様である。中学3年生で学んだ可能性が高い(教科書が違う可能性もあるのでこう言う)ことを思えば、寂しい結果である。
- ② 全くわからないわけではなく、これまでに学んだことを正確に理解し記憶しておくことが苦手であるらしい結果がよく現れている。これは、昨年度も同様であった。
- ③ 作品名「奥の細道」を、「平家物語」とした者が、昨年度に増して多かった。ほぼ、2倍であった。戦いに関わると判断した、読解力を買うべきであろうか。しかし、戦いの場面はなく、平家物語で印象深い、戦いに敗れて武将が死ぬ場面もない。
昨年度と異なるのは、その作者を「琵琶法師」とした者がいなかったことである。「琵琶法師」の印象が薄くなっただけであるのか、はっきりと作者でないことが理解されているのかは、不明である。代わって増えたのが、平家物語の作者を吉田兼好とする者であることを思えば、平家物語に対する理解も怪しい。『徒然草』第226段に「行長入道、平家物語を作りて、生仏といひける盲目に教へて語らせけり。」とある箇所を学び、印象に残ったのであろうか。
- ④ 「『奥の細道』—松尾芭蕉」という繋がりまでわかっても、その成立時代が「江戸時代」と答えられる学生は、その3分の1に減ってしまう。芭蕉が江戸時代の人であることを知らない学生の多いことは、昨年度と等しい。
- ⑤ 問四でただ一人正解の学生(20番)は、10箇所の訓みを正解しているが、「そうせいみたり」といった驚く誤答をし、「ぬ」の説明も誤答であった。問六で俳諧が正解の学生2名(17番と19番)は、17番の学生は14箇所訓めて助動詞の理解も正しいが、19番の学生は6箇所訓めるに止まり助動詞「ぬ」を推量としている。この作品に対する理解のアンバランスが目立つ結果である。作品全体を通して理解できているかという点では、はなはだ心配な結果である。
- ⑥ 「落としはべりぬ」の「ぬ」を、完了の助動詞・終止形と答えられる学生は、50%も存在する。高校時代まで古典文法をよく学んだ結果であろう。学生に、かなり知識が定着していると言えよ

う。繰り返し授業で取り上げられてきた結果、繰り返し学習された結果であると考え。大学2年生の講義をしていると、「古典文学とは、第一に文法」と考えていると見受けられる。文学史等のその他の知識も、古典文学を学ぶ上では必要な事柄であることを理解してもらえよう、作品に興味を抱いて古典と向かい合えるように考えたい。